

NEMURO

人物図鑑

ねむろを愛する
素敵な人たち



「落石ブランドは、

浜の母さんの味です」

海鮮工房霧娘 代表

小谷

鈴子さん (54)

浜の作業場で笑顔で迎えてくれたのは「海鮮工房霧娘」代表の小谷鈴子さんです。

「海鮮工房霧娘」は、地元の水産物のPR・低価値魚種を利用した加工品の開発と付加価値の向上などを目的に、今年3月に落石漁業協同組合の女性起業化グループとして、女性部6名の有志により立ち上げられました。

メンバーはタコ漁やサンマ漁の家業に従事するかたわら、地元落石のブランドを確立しようと新製品の開発と製造作業に取り組んでいます。

「家業をこなしながらの取り組みは大変ですが、一つの目的に向かう仲間が集まり作業を始めると、普段思いつかないような発見もあります。それも女性グループならではの楽しみです。」と話す小谷さんも、事業を始めた当初は、食品加工に必要な衛生面・安

全性などの確保、食品を取り扱うための苦労があったことを話してくれました。

現在は、販路拡大を目標に各地で開催される各種イベントに、積極的に参加をしています。9月に札幌市で開催された「札幌大通ふるさと市場」では、前浜でとれたタコのやわらか煮やザンギを、会場で手作りし販売したところ大好評で、大きな手応えを感じたといいます。

「10月には、東京都品川区で開催されるイベントに参加します。根室の旬を味わっていただきたいので、秋サケの山漬けと味噌漬けを試食販売したいと考えています。根室の水産物をちょっとした工夫で商品化ができれば、幅広く根室の味覚を全国の方々に楽しんでもらえると思います。落石の名を全国に広め、地元の方々の応援もいただけるように頑張りたいですね。」と、作業にあたる小谷さんからは、浜の母さんの強い意気込みが伝わってきます。

動き出したばかりの「海鮮工房霧娘」。まだまだ課題は山積みなのですが、近い将来全国各地で、落石ブランドを目にすることができるようになるのが楽しみです。